

2023年7月10日

学校法人三幸学園  
広島リゾート&スポーツ専門学校  
校長 大原 隆 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 森下 圭

### 学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

##### 1 学校関係者評価委員

- ① 田原 志乃 (有限会社マリエ・フィットネスサポート)
- ② 北村 真阿久 (パーソナルジム MAXIM 代表)
- ③ 森下 圭 (飛鳥未来高等学校 広島キャンパス キャンパス長)

##### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年5月24日(水) 会場：広島リゾート&スポーツ専門学校 304教室

##### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2022年度 学校法人 三幸学園 広島リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 清 洋介

学校関係者評価報告責任者:学校関係者評価委員会委員長 森下 圭

## 1. 学校の教育目標

三幸学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

〈重点施策〉

「チーム広島リゾート&スポーツ専門学校教職員全員で指導をやり切り誰からも愛される人財を育てる」をテーマに2022年度は取り組んできた。

①統一したブレない指導。

②生徒のやる気を引き出す。

③教員が手本を見せる事を強化項目とした。

数値目標としては、年間皆勤率 25.8%、退学率 1.9%を目標とした。

〈振り返り〉

○皆勤率:目標 25.8%→9.7%

・コロナ禍において、出欠席に関しての認識が生徒・教員共に甘くなり統一した認識での指導が実施できなかった。

○退学率:目標 1.9%→7.6%

・担任、教科担当教員との情報共有や、保護者との連携をより一層強化していくことが必要。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

田原委員

・従業員の中でも伝えたことや依頼したことができない人は退職する時期が早まっている。

北村委員

・自分自身の時も先が見えず目標喪失で退学する生徒がいた。学生時代ではスポーツ業界の道筋が見えづらいため、先を見据えた話を教員からしてもらえるといいのではないか。

森下委員

・高校全体の退学率も増えている。定時制の高校を退学して通信制を選んでいる高校生も増えているが通信制をも続けることのできない高校生世代が増えてきているのではないだろうか。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

- ・学校の理念や教育目的、育成人材像は定められており、保護者や生徒への周知も行われている。今後の課題となるのは学校の将来構想である。地域社会への貢献度を高めていく為にどのような活動を行うか、明確な構想を学校が設ける必要がある。
- ・今後地域との連携が求められる中で、地域との関係性を築いていく必要がある。

#### ② 今後の改善方策

- ・地域社会への貢献をしていく為にどのようなニーズがあるのか把握していく必要がある。また、広島エリアでのフィットネス・ウエルネス産業の構造変化も同時に把握していく必要がある。
- ・地域貢献していくために、まずは学生指導に専念し、目指す人材育成像にふさわしい教育をしていく。

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

北村委員

- ・現場に出て人間性が大事だと改めて感じた。スポーツ業界は人と関わる仕事であるため、三幸学園の行事では意識を持って参加することで多くの人と関わるができる。在学中にそういった経験を大事にすることで社会に出た時に生かされるのではないだろうか。

田原委員

- ・弊社社長によるオープンキャンパスの際に保護者対象に、教員とは違う目線での業界についての説明会を行ったことがある。保護者の方に業界のことを知ってもらうことで退学を防ぐことができると感じている。展示会などに行くと鏡に映った自分の姿をAIが鏡上で修正してくれるような機器が出てきており、対面指導との差別化を考えないといけない時代に入っていると感じる。

森下委員

- ・コロナ禍において経験が少ない生徒にとって、行事や日常生活を大事にしている。それらを通して礼儀を学ぶことができるよう取り組んできた。ICT教育で教育を受けてきた世代なので、教員側もデジタル化に対応した授業に適応していく必要がある。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

- ・毎年様々な新規システムが本部より導入されているため、情報システム化による業務の効率化に取り組んでいるが、個々で活用しきれていない状況である。新規システムだけでなく、発信済みのシステムについても、使用方法などの理解度が課題である。また、管理業務が膨大な教務事務については、業務のスリム化とスピードアップが必要と感じる。
- ・「若手教職員の人材育成」と「教職員の生徒指導力」が課題である。

### ② 今後の改善方策

- ・導入した情報システムツールの活用頻度を上げ、活用することが当たり前環境を作り出す。また、活用しているシステムが生徒・講師・学校にとってどのような結果や変化に繋がっているのかを明確にし、定期的に職員会議にて検証していく。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

田原委員

- ・従業員が多方面に出て業務を行っているので、従業員が集まることは少ない。新入社員への教育は、若手社員がマンツーマンで行っており、個々のつながりは深くなっている。

森下委員

- ・Z世代は、我々と感覚が異なっており、言葉が響くポイントが難しいと感じる。ただ、Z世代の子どもたちが関わるのは我々世代となるので、コミュニケーションの回数を増やししながら我々世代を知ってもらうことも大事だと感じている。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

- ・定期的に教育、指導研修は行っているが、多様化する生徒に対しての課題発見力、問題解決力能力の醸成に取り組んでいく必要がある。
- ・教育に関する統一のマニュアルは存在しているが各担任による指導の個人差が見られ、若手教職員の育成とを感じる。
- ・社会人育成の場としてコミュニケーション能力、礼儀、言葉遣いなど人間力を高めるための指導力の向上を図る必要がある。

#### ② 今後の改善方策

- ・統一した教育の質を担保できるよう、定期的な研修を強化していく。また、本部より提示されている様々なデータを活用し、学校内・個々における課題を把握できるよう発信していく。
- ・資格取得の動機付けや意識の向上を図るため、教科間で連携した声掛けや対策講義の実施など、資格取得に向けて一体となって取り組む風土を構築していく。
- ・生徒、教職員の業界理解・業界との関わりを深めるため、ボランティア活動を通して企業連携の機会を増やす。

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

森下委員

- ・学校行事や外部との関わりなど回数は多いにも関わらず参加者も固定になりがちではないだろうか。一人でも多く経験の場に参加できるような教育活動に取り組んでいただきたい。

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

- ・重要資格の取得率は向上しているが、目標数値は未達成の状況。資格取得に対するモチベーションの向が鍵となる。
- ・就職率の向上は図られているものの、年度末までに全員を内定に導くことができなかった。

##### ② 今後の改善方策

- ・安定した資格取得率にしていく為に教科担当教員との連携が重要。取り組んだ施策の振り返りを定期的に行い、成果を集約し成功事例を汎用性がある施策へと昇華させ、全体としての向上に努める。
- ・入学前情報から退学の危険性が高い生徒に対するアプローチの実施。
- ・保護者とのより深い連携を図り退学の示唆を早めに掴む。
- ・就職会議(1・2年生)を設定し担当者と担任で連携を図る。
- ・資格の合格率を向上させる為に課題点であるモチベーションに特化した施策が必要。

##### ③ 特記事項

なし

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

森下委員

- ・高校分野での保護者との関わりは、定時制と変わらず三者面談や進路相談などを行っている。保護者会を定期的に行うことで、教育方針への理解を深めている。ICT教育の中で、デジタル機器を活用し、生徒へ伝達していることが保護者へも伝わるようにしている。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

- ・課外活動(ボランティア活動)に関する支援体制が整備されているが、主催者側との連携調整の拡充が必要。卒業後のキャリア形成に向けたサポート体制の整備が必要である。卒業後にもつながりを持てる関係性やシステムを構築しているが、運用状況が目的を達成するまでに至っていない。
- ・ボランティア内容が学びの内容になるのか、主催者側の提案に対して検討する必要がある。
- ・急な案内で生徒募集に労力がかかることがあった為、主催者側とのスケジュール調整が必要。

### ② 今後の改善方策

- ・課外活動(ボランティア活動)については主催者側へ打ち合わせ等を通じて教育活動として参加している認識を深めていただく。
- ・卒業生との繋がり強化の為に施策を構築し、システムを効率的に運用していく必要がある。
- ・生徒の実践力の醸成を図るため、多くの機会(活動先)を構築していく必要がある。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

北村委員

- ・オープンキャンパスへの参加やボランティアなど、自身が学生時代も参加する人は固定されていた。そういった経験が社会に出た際に活かされるので、定期的に参加する機会があってもいいのではないかと。

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

- ・災害を想定した避難訓練の内容や頻度。ならびに、安全管理の観点や災害の意識強化が課題である。
- ・学外実習においてはボランティア、トレーナー実習先の開拓が課題である。

### ② 今後の改善方策

- ・学科の特性に合わせたトレーナー実習活動先の確保。
- ・長期実習の活動をスタートさせたが、訪問などの活動を評価する体制を強化していく必要がある。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

田原委員(スポーツトレーナー科)

- ・企業内で1年に1回 CPR 救命救急の講習を行い、何か起きた時に対応ができるよう定期的に知識をアップデートするようにしている。



## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

- ・今後、本校入学希望者の大半を占める18歳人口が減少していく中で、学校の存続、および業界への安定した人材輩出を継続していくための方策を検討していく必要がある。

### ② 今後の改善方策

- ・生徒募集を担う他部署（広報部）とも連携し、適切な生徒募集を行っていく。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

森下委員

- ・現在、定時制より通信制を選択する生徒も多く、18歳人口減少を感じることはない。ただ、進学先として大を希望する生徒が増えてきているように感じる。18歳人口減少に伴い、大学合格率が高くなっていると考えられる。また、就職を希望する生徒も増えており、生徒の進路選択が変化しつつある。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

・今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

- ・保育園との連携活動で校舎を使用した体操教室をスタートさせている。参加する園児や生徒の学習成果を高める為に今後も園との連携を強化していきたい。
- ・保育園連携に関して地域との関わりを増やしていくことが必要。

### ② 今後の改善方策

- ・学校という教育環境とスポーツ人材育成という実践環境を活かして地域や関係団体と連携した活動をより推進していく。
- ・地域への説明や案内を実施していく。
- ・地域の保育園の園児を対象とした体操教室の開催。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

田原委員

- ・現場実習が任意となったことで現場を知る生徒が減少したため、日常の学校生活へのモチベーション低下につながっているのではないかと。授業で学んだことを提供できるような場として地域の方に体験会などを開くことで、地域貢献へも繋がり、生徒たちの経験の場を増やすことができるのではないかと。

### (11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

#### ① 課題

・現状、分野特性として国際交流を進めるという観点を持っていない。

#### ② 今後の改善方策

・検討していく。

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

田原委員

・受講者で外国の方は実際増えてきている。ダンス教室では1クラスの大半が中国の方。指導者側で英語によるダンス指導を行っている。

森下委員

・高校でも教員のつながりで外国人の先生を招いて国際交流を行える環境づくりを行っている。

### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価より「地域貢献活動の促進」と「より実践的な学習領域の開拓」という事が今後のキーワードとなっている。学習のアウトプットを行う活動を外部に求め、地域貢献と合わせて活動を行う事で双方のニーズを満たす事になると考えている。また、高齢化社会を迎える中で健康改善の為に必要な学習領域の開拓も行っていく必要がある。現行のカリキュラム内でも一部では行っているが、より深い学びが現場で求められているという事が分かった。今後のカリキュラム構成の参考にしたい。本校生徒の出身が広島県とその隣県に限られていることを踏まえ、エリア特性を活かした人材育成や社会貢献への取り組みを進め、今後も着実に1つずつ形にしていくことも重要な課題である。